

# 山形県知事選24日投開票

# 1票を争う大激戦

# コロナ克服 心の通う温かい県政の継続を

# 日本共産党市議団、吉村みえこ勝利へ全力



24日投開票の山形県知事選挙は、大激戦のまま最終盤を迎えました。

日本共産党をはじめ野党各党と広範な県民が推す吉村みえこ候補は、公務を遂行しながら各地でコロナ克服、山形経済再生が今の県

政の最大の課題と訴え、子育て支援や医療体制の充実など5つの柱を提起しています。

また、皆川治市長をはじめ各界から支援が寄せられています。皆川市長は、県と市が連携してコロナ対策、山形県沖地震の救

援事業、豪雨災害対策を進めた知事の実績を紹介し、支援を訴えました。

日本共産党鶴岡市議団は、吉村みえこ知事勝利へ、市民に支持を広げて頂くよう最後まで全力で訴えています。



# 大雪・コロナ対策で予算増額

# 臨時市議会 一般会計補正予算を全会一致可決

鶴岡市議会臨時会が14日開かれ、令和2年度一般会計補正予算を原案通り全員賛成で可決しました。

8億8千万円追加

補正は大雪に伴う除雪対策事業8億4300万円、新型コロナウイルスで小規模事業者新しい生活様式対応支援事業4340万円の計8億8640万円を追加し、予算総額を957億3602万円としました。

は、平成29年度の19億8852万3千円でし。小規模事業者の支援事業は、12月議会で申請状況をみて減額補正していましたが、12月の最終週に想定以上の多くの申請がされ、予算額に不足が生じたことから増額補正が必要になりました。

# ◎映画『主戦場 ようこそ「慰安婦問題」論争の渦中へ』

◎日時：2月6日 (土)

昼の部  
鶴岡中央公民館  
14時上映開始

夜の部  
鶴岡アートフォーラム  
18時半上映開始



# 主戦場



◎料金：1000円 (学生無料)

◎主催：ドキュメンタリー映画上映実行委員会  
連絡先：フクシマの子どもを守る家  
(080-5733-8090)

過去の除雪費決算額の最高額



ロータリー除雪車(市資料から引用)



# 大雪で農業施設被害広がる

## 菅井市議が現地調査、市に要望伝える



大雪で倒壊したビニールハウス(西郷地区内)

被害が広がっている。農業ハウスの多い西郷地区での被害調査に、菅井巖市議が12日に訪れました。

市の被害調査によれば13日現在、市内全体で農業施設被害は279件となっています。

管内では、ビニールハウスの全壊24棟、ビニール破損が150棟以上となっており、被害が管内に集中しています。

地元農家からは、「一晩で一気にハウスに雪が降り積もり、除雪が追い付かなかった」「ビニール切れなければハウスが潰れた」との声が聞かれました。

被害農家からは、撤去費用や、補修・建替え費用、廃棄ビニールの処分費用の補助について支援の要望が出

今冬9日の大雪により、農業ビニールハウスの倒壊や被覆ビニールの破損など農業施設

JA鶴岡・西郷支所

被害農家からは、撤去費用や、補修・建替え費用、廃棄ビニールの処分費用の補助について支援の要望が出

# 日本遺産・名勝を制限対象に

## 鶴岡市「風力発電施設設置ガイドライン」改正

「鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドライン」が12月28日改正され、令和3年1月1日から適用されました。

的に「歴史・文化的資源の保全」を追加

市民への早期の段階における事業概要の公表

ガイドラインは風力発電の円滑な推進を図る目的で定められていますが、出羽三山近郊での事業計画が昨年度浮上し、住民の反対署名などで事業者が計画を白紙撤回するなど、課題が生じていました。

## 「歴史・文化的資源の保全」など追加

改正のポイントは次の4点です。

①ガイドラインの目



市議会常任委で運営方法見直しが可決された「長沼温泉ぽっぽの湯」(上)と「くしびき温泉ゆ〜Town」(下)

されました。菅井市議は市農林水産部を訪問し、聞き取った支援の要望を伝えました。

応対した高橋農林水産部長からは、被害実態の把握をすすめ、国・県等への被害対策の

同意を求める範囲を拡大(住民自治組織など市が指定する関係機関)

改正作業は、各分野の有識者からヒアリングを行い、環境審議会や景観審議会、及び文化財保護審議会で審議を通じて進められました。

保全すべき場所表明、全国的にも先進事例に

ガイドライン改正については、昨年の9月議会で日本共産党の加藤鉦一議員が初めて取り上げ、市民部長が「市のガイドラインに法的強制力はないが、保全

要望をすることともに、市の支援についても検討する旨が述べられました。



菅井 巖議員

すべき場所を表明する点では非常に有効だ。先進事例を調査研究し、審議会の意見を聞き、改定について検討していく」と答えていました。

全国的に大手企業による大規模な風力発電計画が相次ぎ、自然豊かな環境に影響を与え、騒音や低周波による健康被害などが心配されています。

自然エネルギーの転換は当然ですが、鶴岡市のガイドライン改正は、景観や地域生態系の保全、地元住民の合意など、再生可能エネルギー導入を進める上で、全国的にも先進の事例となりました。

## 日帰り温泉施設運営方法

### 見直し常任委で可決

#### 29日臨時市議会で議決へ

12月議会で閉会中の継続審査に付されていた「日帰り温泉運営方法見直しの条例改正」2件について、産業建設常任委員会が15日開かれ、原案通り全員賛成で可決されたことから、29日に臨時会が開催される予定です。

条例改正案は、「長沼温泉ぽっぽの湯」と「くしびき温泉ゆ〜Town」の運営につい

て、第3セクターが指定管理を受け経営してきましたが、利用客の減少から赤字となり、このままでは施設を維持できないとして、指定管理を「利用料金制」から「委託料」に改めるものです。

両施設とも地元の運営組織を立ち上げ、庁舎の支援を強化し、改革の準備を進めています。